

琉球大学学術リポジトリ

ウール製品とその加工について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡口, 文子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21059

ウール製品とその加工について

秋も深まり心地よい気節になりますと、皆様の身の廻りには肌ざわりのよい木綿やウールの天然繊維が好まれ、中でもウールは愛されているもの一つだと思います。このウールについてのいろいろな研究報告の中からまとめてお伝えしたいと思います。

天然繊維のウール

ウールは天然繊維の中でも植物繊維について太古から利用され、衣服材料としての歴史は7千年も前からといわれています。ウールの風合は繊維の王といわれ、繊維化学の発達した今日でもまだ発見出来ないアミノ酸が幾種かあるといわれますので、まだまだ天然繊維のウールでなければその風味は保たれないのでしょう。此のウールもこれまでの様に冬物ばかりでなく、四季を通して活用され10年前とは変わってきましたので、ウールに対する私達の知識も変えなければなりませんでしょう。

ウールの持つ特質は、保温性、捲縮性、可塑性、弾性が大です。短所は縮み易く、耐熱性、耐光性、耐アルカリ性、虫、かびに弱いことが言われています。以上の長短を補うために合成繊維の特徴を相互に生かした、混紡、交織、加工の技術でウールの利用範囲は更に広くより高級品が生産されています。

混紡及加工の種類

「混紡」

ウールの特質をよくし、欠点を補ってくれる合成繊維には、ポリエステル系、ナイロン、ポリアクリル系、ビスコース等が多く利用されています。混紡、交織もその目的によりそれぞれの繊維と組合わされていきます。例へば、

1. 価格を下げる。(現在では10%~20%位)
2. 可紡性をよくする(羊毛だけでは強力がたりない)
3. 耐磨性の向上(ナイロンの耐磨性利用)
4. 防しわ性(ブリーツ等)
5. 収縮性(洗濯中のフェルト防止)
6. 乾燥性(高い湿度でも比較的早く乾く)

があげられ羊毛の持つ短所は合成繊維の混紡、交織によってほとんど改良されて行く。繊維の組合せを見ますと、主に二種の混紡より(触感が余りよくないといわれる)三種の混紡がよく使用されている。例1

2 エステル+ウール+ビスコース

ニット製品には主に二種の混紡が多く、中でもアクリル+ウールがよく使はれます。

「加工」

(一) 化学セット加工 加工では新しいセット化粧があり、その特徴をあげますと、

1. 形がくずれにくい
2. 収縮が起りにくい。水にぬれてもでこぼこが起きにくい。
3. つやが消えにくい。
4. 柄がさえる。
5. シワが起りにくく、ついてもすぐ消え易い。
6. 縫製の際の裁断がやりやすい。

このセット化粧されたウールは着ていてシワがついても、霧吹きしてつるしておくだけで消えてしまいます。

(二) シロセット加工(ひだの消えないブリーツスカート)

特徴 1. 雨に合っても、ドライクリーニングしても大丈夫

2. 水にぬれても形くずれしたり、シボが出来たりしない。

3. 長い着用でひだが甘くなった様に見えた時にも、霧吹きしてつるしておくだけで元のきれいな線にもどる。

(三) クロンセット加工(紡縮加工)

1. 全然フェルト化もなく、毛羽立ちもほとんどない。

2. ビリング(毛玉)の発生も少ない。

(四) 其の他、新しい分野として

1. 純毛ストレッチ加工

家庭用、スポーツウエアーとして

2. 完全防しわ加工

以上の工程後最後の仕上げとして緩和収縮と云う収縮をします。それはサイズや形を整えたり又表面を美しくするために引っぱって蒸気処理が行われるので、時には着用に変化の大きいのが出ることもあります。

今後のウール

ウールの需要範囲は高級品、ニット製品、和服地とのび、中でもニット製品、和服地の進出は目ざましく今までの活動着だったウールはおしゃれ着と普段着の中間へと巾を広げています。ニット製品もイブニングを目的とした編地へのボンデング加工などは最近の目新しい製品です。

和服地でもウールの着物が出来その暖かさ、軽さ、便利さが好まれ冬の普段着としてのみ知られて来ましたが、此の数年前から絹に変わろうとしている現状です。ウールと絹の交織で外出着、おしゃれ着とその織方、柄は現代化され、どの年代層からも喜ばれ、ウールの生産は絹を越す現状です。これまで絹の生産地として知られていた土地も今では60%以上もウールを扱っている状態です。三年前から最高品の絹同様に紋ウールが織り出され、袷せ着にも出来る程の薄地物が好まれる様です。

沖縄でのウール

沖縄でのウール購買範囲を調べて見ますと、ニット類ではほとんど純毛糸が好まれ、小物にしか合成混紡や交織は好まれず、その利用度は1%前後の様です。ニット製品には混紡製品が喜ばれ、洗濯による伸び縮みのないのが若い人の人気の様です。特にドレッシェーなものが好まれています。

これからどんどん普及して行きます毛糸にも私達はもっと視野を拡げて目的に合った糸を利用する消費者になりたいと思います。

ウールきもの利用も多く、その製品はますます絹同様になりつつあります。中でもお召ウールは昨年より織りもよく、ウールとは思われない位の薄手のものになっておりますし、今年から数多く出廻るとされる紋ウールも店頭を飾っております。これからのウールはすべての点で扱いが便利になりましたので自分の生活に合せた衣服として利用して行きたいものです。

ウールの製品の手入れ

気をつけておきたい事

- 1 ニット製品はぜったいにハンガーにつるさないこと。かならず軽くほこりを払い折りたたんでおく様にします。
- 2 洗たく後、スチームアイロン、又はしぼったタオルの上からアイロンしたあとはブラジで軽く毛羽を立てるとアイロンのピカピカが消えます。

(洗濯の最後の仕上げにヘアーリンスを使用するのもウールものを美しく保つ方法です)



信頼して買える高級ウールのシンボル
(今秋発売の製品から貼布)

このマークはウール80%以上のもので品質管理に合格したものに付けられます。

註「衣生活」1966年8月号

(渡口 文子)